



にゅーすれたーふじやま・長泉



2017. 2

梅から桜へ。。。。

パトニックエイジフリーショッフ

一月に続き「鶏」のことを少し書かせていただきます。伊勢神宮の内宮、神苑に「神鶏」というニワトリが放し飼いになっています。それには深い意味があります。天岩戸伝説の中で天照大神が天岩戸にお隠れになってしまったとき（天照大神が機屋で神に捧げる衣を織っていたとき、健速須佐之男命＝サノヲミコ＝が機屋の屋根に穴を開け、皮を剥いだ馬を落とし入れたため、驚いた1人の天の服織女が死んでしまった。怒った天照大神は天岩戸に引籠もり世の中が真っ暗になった）神様たちは大変お困りになり、いろんな神事をされたそうです。朝を知らせるニワトリを連れてきて三回鳴かせ、神様たちは唄ったり踊ったりの大騒ぎ、そうこうしているうちに天照大神が中から何をしているのだろうと岩戸を少し開け、顔をのぞかせたところをすかさず神様（天手力男＝アマノツカサ）が大きく開けてしまわれ、天照大神はお出ましになり、再び平和な国が戻ったと言われています。今でも20年に一度行われる式年遷宮では神官の三回の「カケコー」を合図に儀式は始まります。そんな伊勢神宮の神鶏、一度は見てみたいものです。

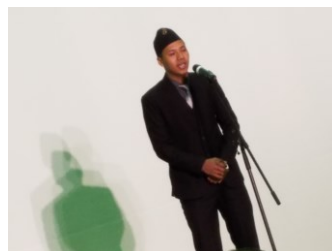


2月3日は節分でした。最近では恵方巻きを食べる習慣がどこからか伝わり（関西地方だと言われている）、スーパーやコンビニ、神社の境内等で売られています。節分の豆撒きは邪気を祓い清め、運氣・幸福を招き入れるめでたい行事です。

三日市の浅間神社では豆まきの豆の中に引換券が入っていて、終わってからは交換の行列ができ、賑わいます。今年はお天気に恵まれ撒く人も、拾う人も良かったと思います。2017年も平和であってほしいと祈るばかりです。



2月5日（日）第29回国際交流フェアがふじさんメッセで開催されました。富士市在住の外国人や市内で活動する国際交流団体などが集まり、民族衣装や踊り、料理など自国の文化を紹介する年に一度のイベントです。今回は富士市市制50周年を記念し、日本の伝統文化の節分「豆まき」を行いました。その他に国旗当てクイズも行われ、楽しい一日を過ごしました。あいにく昼前から雨が降り出して、寒くなり、お客様も例年より少なかったように感じました。私が所属している国際ソロプチミスト富士は毎年ラオスのモン族の手作り刺繍の手芸品を販売しています。今回も多くの方に購入していただきました。収益はラオス在住の安井清子さんを通じてラオスの子どもたちの教育に役立ててもらっています。



久しぶりの5日の雨でインフルエンザも少し落ちついてくれるといいのですが。。。このレターが皆様のお手元に届く頃には大分暖かくなっていると思います。くれぐれもご自愛の上、桜の咲く時季を健康で楽しく迎えましょう。

渡邊啓視

